香美市立美術館 アートの窓

香美市立美術館では、毎年恒例の『香美アートアニュアル展』を開催します。6回目の今回は『ものづくりの世界』として、ひょうたんランプ作家の**公文靖**、えかき・ねんど作家の**とおちかあきこ**、染色家の**にしみねくみ**、造形家の**平地正利**、バードカービング作家の**堀田幸生**、根付・珊瑚作家の**森謙次**、チェーンソーアーティスト**山本祐市**の7人による作品を展示します。30代～70代までの幅広い年齢の高知ゆかりのアーティストたちによる作品は、ものを作る楽しさがいっぱいで、見る人をワクワクさせるような魅力にあふれています。

高知にはたくさんのものづくり作家がいて、さまざまな表現が見られますが、3次元の立体的なものづくりを目にする機会は意外に少ないのではないでしょうか。文化の一翼を担っている、こうした作品をぜひご覧ください。夏休みのひとときをご家族で楽しんでみてはいかがでしょうか。

（館長・都築房子）

香美アートアニュアル vol. 6

ー ものづくりの世界 ー

8月8日（水）～9月2日（日）

休館日／毎週月曜日（祝日の場合、火曜日が休館）

吉井勇記念館だより

星祭 ～旧七夕まつり～

吉井勇が初めて猪野々を訪れたのは旧暦の七夕。当時、勇が見た昔ながらの七夕飾りを、猪野々活性化委員会・猪野々老人クラブのご協力で記念館入口に再現します。市内の小中学生が書いた短冊も飾ります。風情ある景色を、ぜひご覧ください。

【期間】8月5日（日）～8月12日（日）

星祭 地域イベント 開催

星祭最終日に、香北中学校吹奏楽部演奏会、地域の方による『山の男のチェーンソーアート』や、露店での軽食販売、子ども向け企画、松明（たいまつ）の点灯など、猪野々地域ならではのお楽しみ企画を行います。

また、合わせて、記念館では渓鬼荘のライトアップと夜間開館を行います（20時まで入館可）。

【日時】8月12日（日）

◆香北中学校吹奏楽部演奏会 14時～

◆地域の方のイベント 15時～20時

【場所】猪野々集会所、広場（吉井勇記念館西隣）

【送迎バス】香美市役所本庁舎より、香北支所経由。

◆行き ①12時30分発（香北支所12時55分） ②16時発

◆帰り ①15時発（香北支所16時25分） ②20時発

※要予約

◆問い合わせ先 吉井勇記念館 ☎58・2220

香美市文芸 風の流れ

◆一般投稿作品◆ 岡崎桜雲 選

久びさに図書館巡り梅雨晴れ間 荒木 景子
こいのぼり園児の笑顔は福の神 岡本 初美
蛍飛ぶ全員集合八時だよ 楮佐古きよ
もてなしの匂う初瓜鉢に盛り 上池 児末
山萌えて五月の色になりにけり 都築 忠義
やまももの品定めかな盆揺する 中村 紫乃
百日草芽出て楽しみ一つ増え 畠山 千江
山梔子（くちなし）の白き香りの狂おしさ 原 茂
年寄りの日ぞ休戦だまんじゅうだ 福留ともり
やまもものかごにいっぱい足かるく 三木 牧子
夕菅が咲いてきれいな風が吹く 三谷 誠郎
その昔軍機現はる雲の峰 森本 幸美
ひっそりとくまがい草は峡（かい）に咲く 山﨑 寿美
床に臥（ふ）す祖母に届ける岩清水 山﨑 貴子

◆かがみ野俳句会◆

万緑や吸ひ込まれゆく郵便車 古川 信子
風鈴の音色に話題広がれり 利根 弘子
見渡せば棚田の一画麦の秋 森本 佳代
ジーンズの穴に吹き込む青嵐（あおあらし） 山崎 鈴子
これよりの余生気ままに夏帽子 中澤 美晴
陶風鈴鳴りて身に染む音色かな 坂元 道子
紫陽花のたゆたふ白や忌を修す 佐竹 洋子

◆美良布俳句会◆

地震（なゐ）つづき次はと案ず梅雨寒し 岡本かほる
母の日に賜（たま）ひしピンク額の花 明石ゆきゑ
老鶯（ろうおう）と呼ぶには惜しや声の艶（つや） 北村 幸子
わが町に戻りしつばめ飛び交へり 甲藤 卓雄
夏至の空峡に時報のわらべ歌 北村 里子
雲湧きて今年始めて青簾（すだれ） 小野川順子
時鳥（ほととぎす）はずむ話の輪に入り 前田 芳子
ひさびさの白きブラウス薄暑かな 高田 米子
初夏の朝ラジオ体操眠気覚む 中内ゆかり
父の日や食べる宝石さくらんぼ 竹内 ろ草

◆かほく俳句会◆

女湯に男の赤子聖五月 乾 真紀子
今昔女児生まれたり桐の花 奥宮かなえ
麦飯に育ちて卒寿（そつじゅ）麦の秋 黒岩千英子
袋かけ蝶見て居れば蝶になる 久保内鏡子
「ばら」燃ゆる男心を言ひそびれ 小松 隆之
春宵や卒業写真に捜す人 杉山 春萌
六月のワンドリンクのジャズライブ 野村 里史
小綬鶏（こじゅけい）の声早暁の机辺にて 津田吾燈人
梅雨晴れや出銭の増えし山ぐらし 前田 欣一
十草の匂ふ山家や梅雨しとど 前田 智
海光の眩しき枇杷（びわ）を貰ひたり 間崎 和代
六月も変ることなき処方箋 宮崎ただし
冷麺は水の形に流れけり 森本 之子
母の日に子の気遣ひや顔見せて 山中 明石

◆土佐山田町俳句会◆

山からの父の家苞（いえづと）夏蕨（なつわらび） 明石 韮生
赤とんぼ二死満塁を横切りぬ 橋本 昭和
かき氷別れ話のまんなかに 安丸 槇子
白南風（はえ）のファックスで来る行程表 前田美智子
休み場という石ありて夏野原 森田 菊恵
蛇行きて鉄路の果ての大夕焼 西内 道彦
黒南風や連れられて入る手術室 笹岡 英世
河川事務所の灯が煌煌と戻り梅雨 樫谷 雅道

今月のキラリ 広報委員会

その昔軍機現はる雲の峰

雲の峰は入道雲のこと。青く澄んだ夏空に湧く入道雲を見るたび、編隊を組むB29の来襲がよみがえる。その昔、哀しい時代があった。

俳句・短歌の投稿方法

▼投稿方法は自由。住所、氏名、電話番号を明記してください。

▼俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載月の前月の1日までに投稿してください。

▼誌面の都合により掲載されない場合があります。なお、選者の添削を不要とする方は添削不要と記してください。

【投稿先】総務課内広報委員会事務局「俳句・短歌」係
〒782-8501（住所記載不要） FAX 53・5958